

公開シンポジウム(主催：日大文理学部坂本真士研究室)

2018年3月17日(土) 13:00～16:00



「新型うつ」研究の最前線 — 研究と実践の対話のために —

「新型うつ」とは？ 研究プロジェクトの全体像
坂本 真士
(日本大学)

「新型うつ」とは？

- 2000年頃から注目を集めてきた新しいタイプの抑うつ
- 従来のメランコリー型の抑うつとは、対照的な側面をもつ
 - 否定的なイメージで語られることも多い

表 従来型うつ病と「新型うつ」との比較

	従来型うつ病	「新型うつ」
年齢層	中高年層に多い	20代から30代に多い
性格特徴	几帳面でまじめな性格	自立せず無責任で役割から逃避する傾向
	規範に対して好意的で同一化	規範に対して「ストレス」であると抵抗する
	秩序を愛し、配慮的で几帳面	秩序への否定的感情と漠然とした万能感
	基本的に仕事熱心	もともと仕事熱心ではない
気分	継続して落ち込み	激しい浮き沈み
場所	関係なく、沈む	会社
症状特徴	週末や休日も不調	週末や休日は元気
薬物療法	比較的よく効く	効果が限定的。

参考：亀田 (2011)、斉藤(2011)、樽味 (2005)、山本 (2010)

従来型抑うつイメージ

松崎・吉野 (2011)



発症前



発症後

「新型うつ」のイメージ

松崎・吉野 (2011)



発症前



発症後

これまでに研究されてきた抑うつと違う？

- 例: 否定的な出来事を内的・安定的・全般的要因に帰属、自責
- 坂本研究室で「新型うつ」の研究を開始
 - 平成25年～27年
科研費 基盤研究(C) 「『新型うつ』に関するパーソナリティと社会的認知の研究」
 - 平成28年～31年(予定)
科研費 基盤研究(B) 「『新型うつ』の予防と治療に関する心理学および精神医学的研究」
- 本日は、これまでの研究室での成果の一部をご紹介します

「新型うつ」をめぐる批判、問題点

1：「新型うつ」はうつ病なのか？

➤DSMのうつ病の診断基準には合致しない

「2週間以上、ほとんど毎日」・・・週末に調子がよいのでは、この基準は満たさない

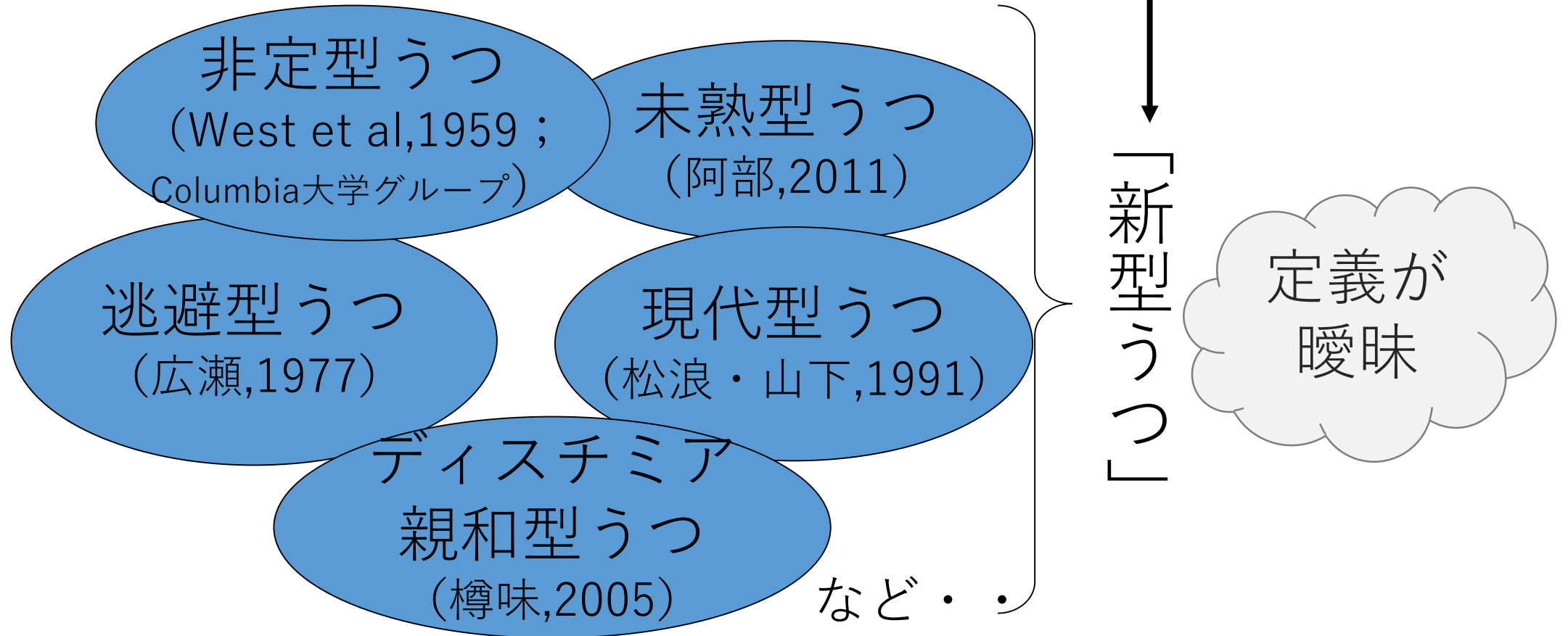
➤うつ病以外の状態では？

不安症(あるいは混合状態)、パーソナリティ障害、発達障害、適応障害など

2：「新型うつ」をどう定義するのか？

➤診断基準や学術的定義はあるのか、マスコミ用語ではないのか

従来のタイプとは異なる特徴をもつ抑うつを
包括的に差し示す用語として



1：「新型うつ」はうつ病なのか？

現時点での我々の考え

- 従来型のうつ病とは異なる特徴を有する、一群の抑うつ症候群(新しいタイプの抑うつ症候群)が存在する
存在はKato et al. (2011)の国際共同研究によって示唆されている
- 疾病単位としての「新型うつ」を想定していない。他の疾患との重複はあり得る。

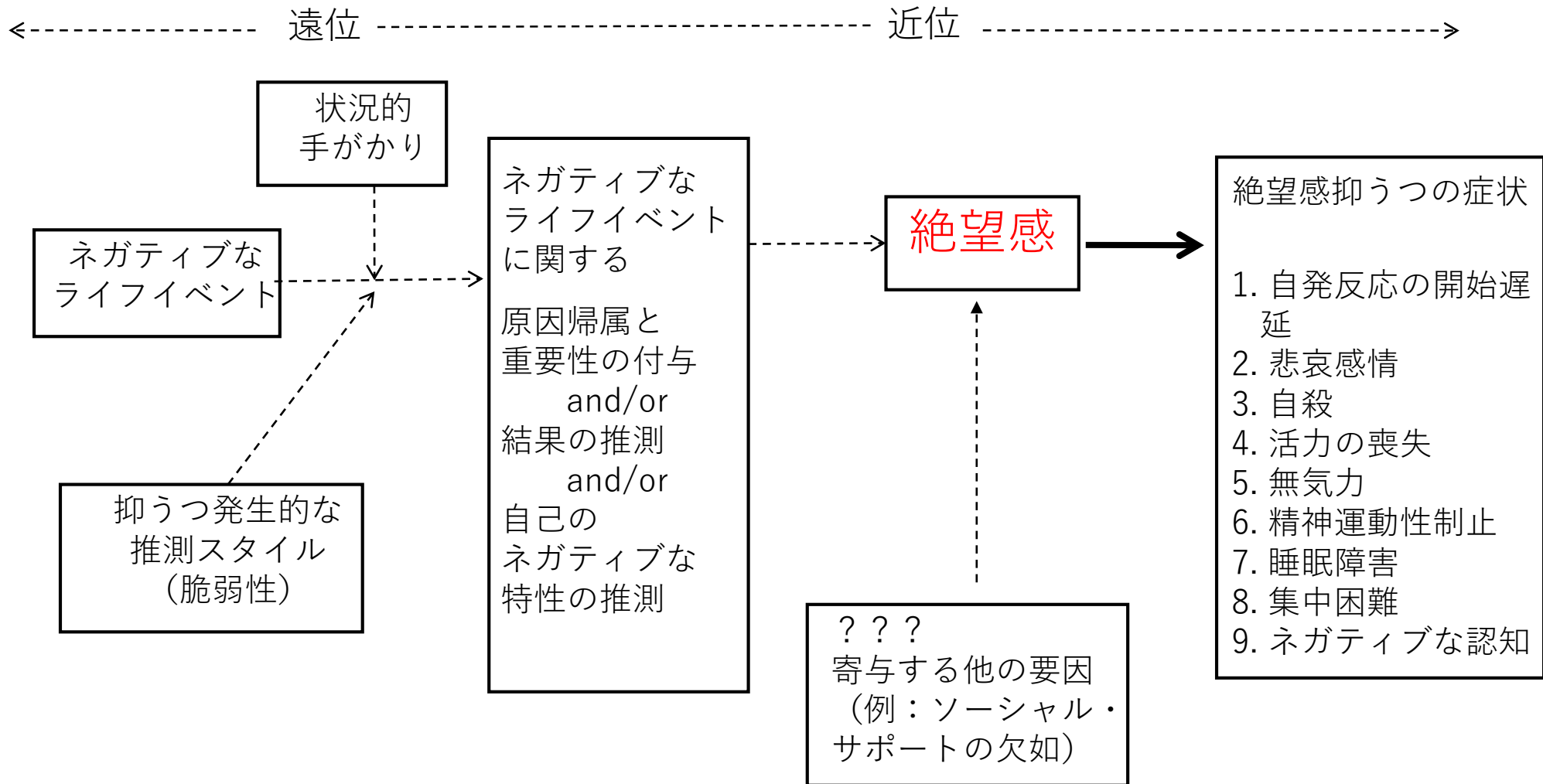
2：「新型うつ」をどう定義するのか？

- 定義は主に精神医学で取り扱う問題なので、精神科医による提案を待つという方針

Kato et al. (2016)による「現代抑うつ症候群（現代うつ・新型うつ）」の診断基準の提案に賛同

- 心理学理論に基づく症候群概念の提起？

例：Abramson et al. (1990)の絶望感抑うつ理論



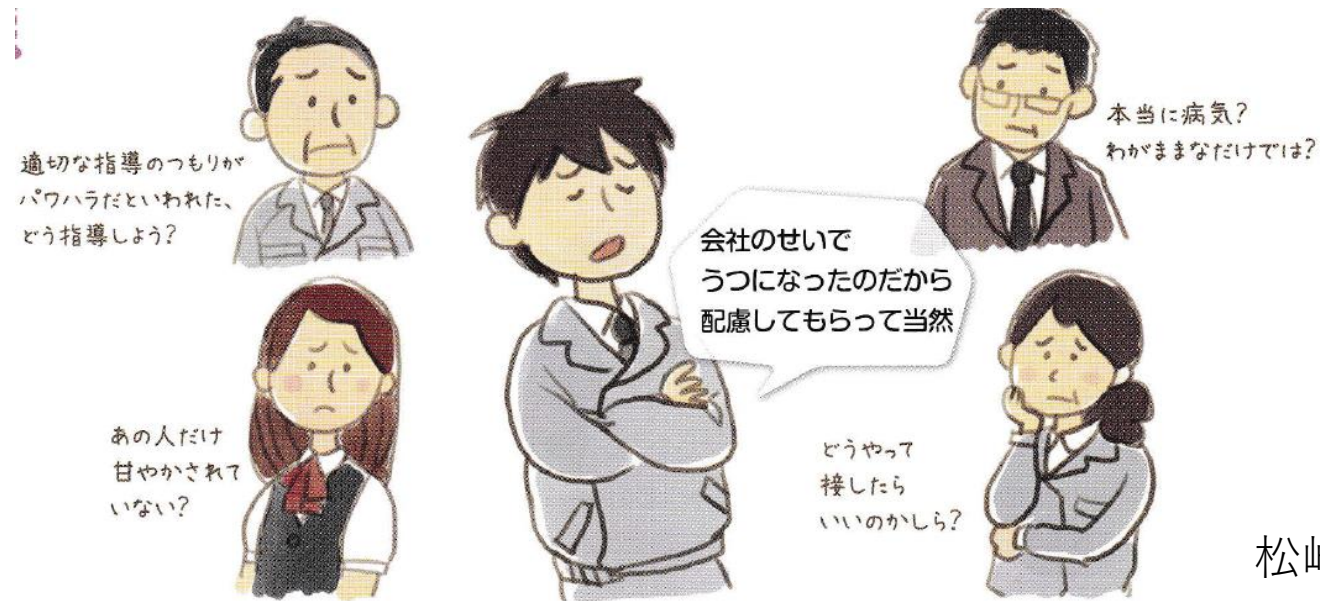
絶望感抑うつにおける因果パス (Abramson et al., 1990を一部改変)

2：「新型うつ」をどう定義するのか？

- 定義は主に精神医学で取り扱う問題なので、精神科医による提案を待つという方針
 - Kato et al. (2016)による「現代抑うつ症候群（現代うつ・新型うつ）」の診断基準の提案に賛同
- 心理学理論に基づく症候群概念の提起？
 - 例：Abramson et al. (1990)の絶望感抑うつ理論
- 「新型うつ」を状態像として(暫定的に)定義した上で、「新型うつ」についての社会的認知を調べる必要がある

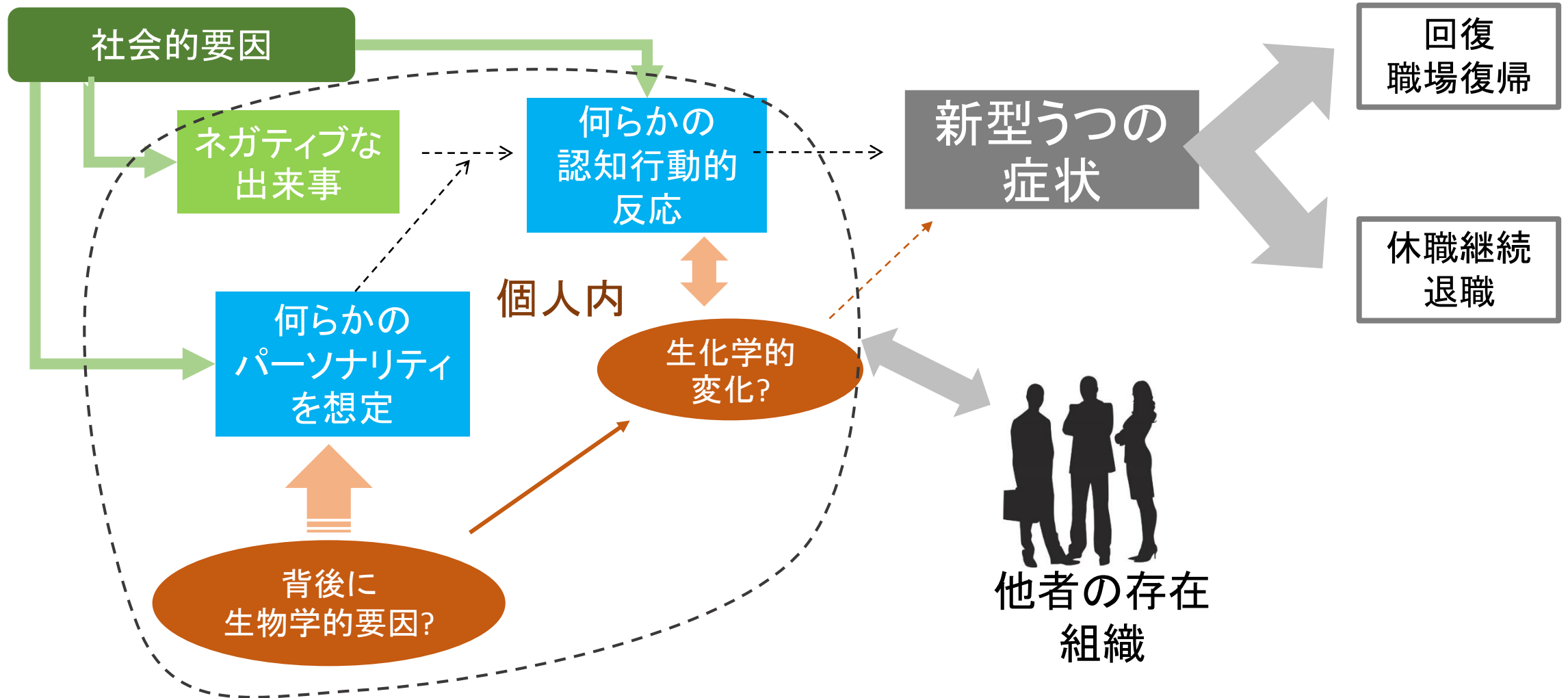
「新型うつ」と対人相互作用

- 「新型うつ」の人は周囲から否定的に見られている？
 - これまで聞いてたうつ病とは違う
 - ジコチュウ、わがまま・・・性格に原因が帰属される？



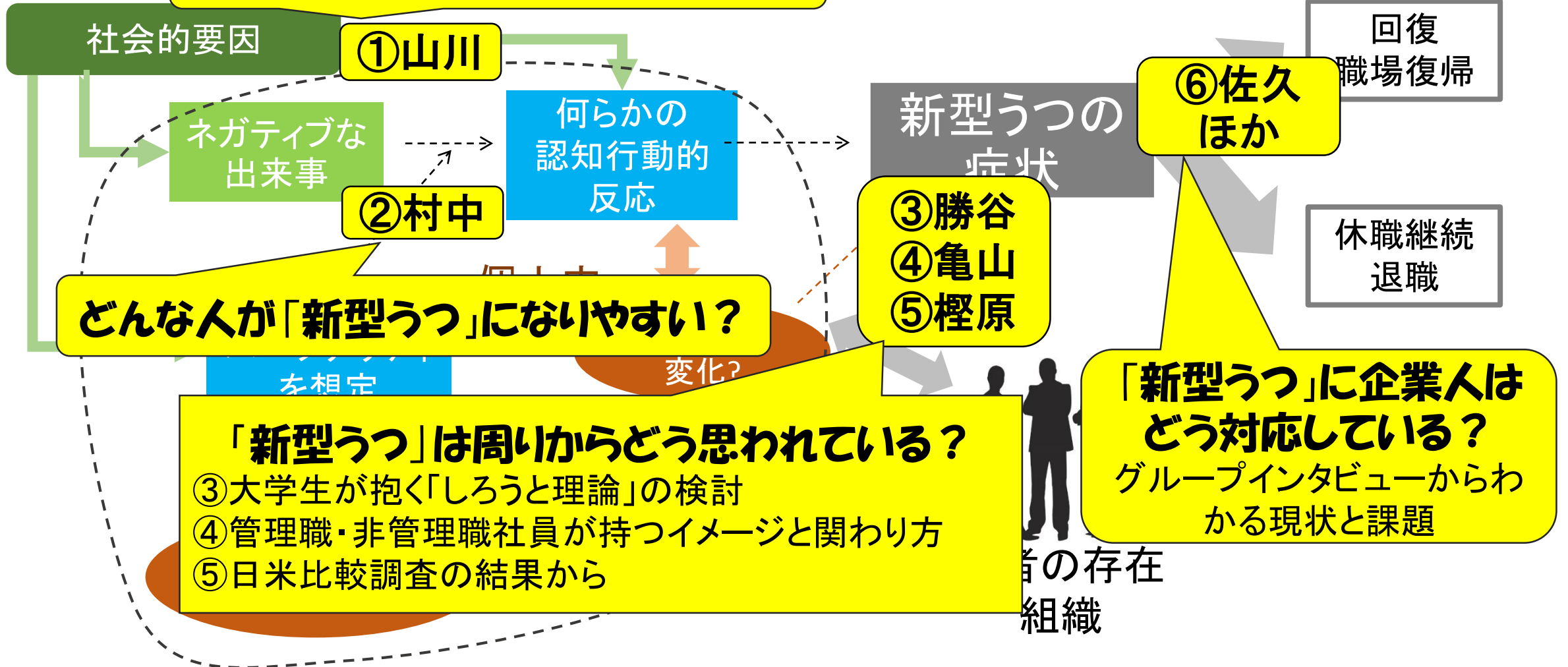
松崎・吉野 (2011)

「新型うつ」を理解するための生物-心理-社会モデル



「新型うつ」を理解するための生物—心理—社会モデル

「新型うつ」の若者はなぜ増えた？



本シンポジウムについて

- 前半(13:00～15:10)は、「新型うつ」の発症や悪化・回復に関わる研究として、6つの研究を発表する。
- 後半(15:10～16:00)は、即席の小グループに分かれ、「新型うつ」の問題にどう取り組むか、知恵を出し合う時間としたい。
 - 「学生」「会社員・一般」「専門家(研究者, 臨床家)」の交流を進める。
 - 異なる立場の意見に出会うことで、「新型うつ」についての新たな気づきを得る場としたい。

シンポジウム中の写真撮影について

- 本シンポジウムでは、当日の様子を記録するため、スタッフが写真撮影を行っています。
- 撮影した写真は、坂本研究室のホームページに掲載させていただきます予定です。
- 「自分が映った写真は使わないでほしい」という方は、休憩の間に、お近くのスタッフか登壇者にお声掛けください

主要引用文献

- 阿部 隆明(2011). 未熟型うつ病と双極スペクトラム 金剛出版
- Abramson, L. Y., Alloy, L. B., & Metalsky, G. I. (1990). Hopelessness depression: An empirical search for a theory-based subtype. In R. E. Ingram (Ed.), *Contemporary psychological approaches to depression* (pp.37-58). New York: Plenum Press.
- 広瀬 徹也 (1977) 「逃避型抑うつ」について 宮本 忠雄 (編) 躁うつ病の精神病理 2 (pp. 61-86) 弘文堂.
- 亀田 高志 (2011). 管理職のメンタル対応のツボ (第1回) 新型うつへの対処法 産業医と連携を (10分間で学べる業務革新講座) 日経情報ストラテジ-, 19, 154-157.
- Kato, T. A., Shinfuku, N., Fujisawa, D., et al. (2011). Introducing the concept of modern depression in Japan: An international case vignette survey. *Journal of Affective Disorders, 135*, 66-76.
- Kato, T. A., Hashimoto, R., Hayakawa, K., et al. (2016). Multidimensional anatomy of 'modern type depression' in Japan: A proposal for a different diagnostic approach to depression beyond the DSM-5. *Psychiatry and Clinical Neurosciences, 70*, 7-23.
- 松浪 克文・山下 喜弘(1991). 社会変動とうつ病 社会精神医学, 14, 193-200.
- 松崎 一葉・吉野 聡(2011). 働く人のメンタルサポート よくわかる新型うつ 現代けんこう出版
- 齊藤 政彦 (2011). 現場で産業医として活動するためにーメンタルヘルス対策を中心に 日本保険医学学会誌, 109, 269-281.
- 樽味 伸 (2005). 現代社会が生む“ディスチミア親和型” 臨床精神医学, 34, 687-694.